

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0309 NO107

校長 伊波喜一

薄明り 込める思いよ 文明の ルーツ探るか 洞窟壁画

スペイン北部のラパシエガ洞窟の壁画が世界最古であると、国際研究チームが発表した。これまでは4万年前に描かれたスペイン北部のエルカスティーヨ洞窟の壁画が、世界最古とされてきた。しかし今回の発見で、壁画を描いたのはネアンデルタール人だということが分かった。洞窟の壁画には線を組み合わせた梯子の図形もあり、ネアンデルタール人には、象徴表現力があつたことが分かる。従来、ネアンデルタール人は身体能力に優れる反面、言葉でのコミュニケーション力が弱くそれが絶滅につながつたとされていた。今回の発見は、その説に新たな視点を加えたと言ってもよいだろう。

土器などの象徴文様に見られるように、人は何かを表現しようとする生き物である。今ほど言葉が発達していなかつたネアンデルタール人は、梯子にどんな願いを託したのだろうか。飢えや危険と隣り合わせの生活の中、日々の生活に明け暮れながら薄暗い洞窟の奥で描き込めたかつたのは、一体何だつたのだろうか。それは、自らが今ここに生きているということの証だつたのかも知れない。